World Tsunami Awareness Day

To protect
the precious lives of people
around the world

What's Your Tsunami Preparedness?

November 5th

11月5日は，国連で「世界津波の日」に制定されました

日本は，これまで幾多の災害を経験して培ってきた防災の知識や技術を有しています。防災体制の整備や事前の防災投資，災害復興の際に，より強靱な社会をつくる「より良い復興」（ビルド・バック・ベター）の実践や支援など様々な取組を実施し，国際社会をリードしてきました。

2015年3月には，東日本大震災の被災地である仙台において，「第３回国連防災世界会議」が開催され，その成果として，「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」や「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（ＣＯＰ２１）におけるパリ協定」等に防災の視点がしっかりと盛り込まれるなど，「防災の主流化※」に向け，日本が大きく貢献しました。

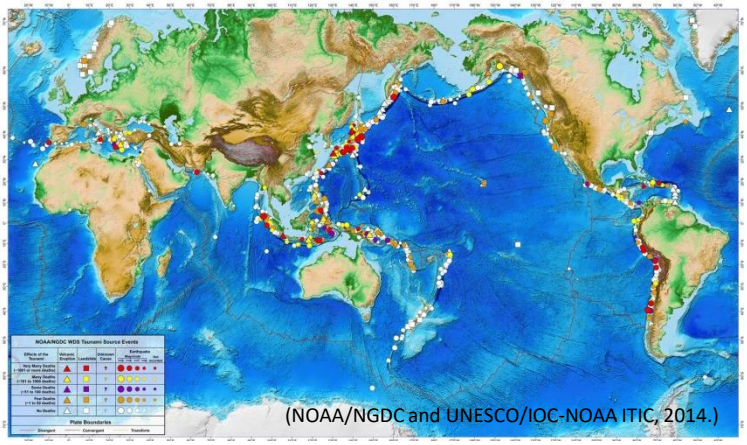
※各国政府が「防災」を政策の優先課題と位置づけ，開発政策や計画に取り入れること。結果として，「防災」への投資が増えることで，より強靱な社会がつくられることが期待できます。

第３回国連防災世界会議 開会式

「第３回国連防災世界会議」や「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」のフォローアップとして，2015年12月，国連総会で，我が国をはじめ１４２カ国が共に提案し,１１月5日を「世界津波の日※」として制定する決議が満場一致で採択されました。

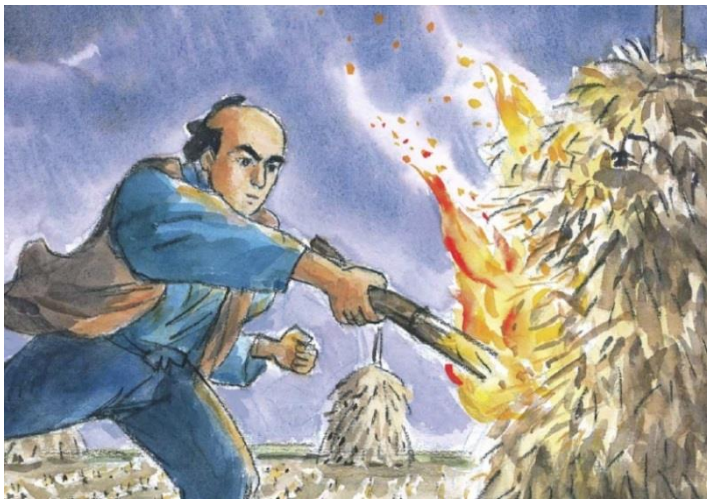
※日本では，「津波対策の推進に関する法律(2011年6月)」により，11月5日が「津波防災の日」と定められている。

津波による被害は，世界中で起こっていますが，毎年何度も起こる災害ではありません。しかし，スマトラ沖地震(2004年12月)や東日本大震災(2011年3月)における津波のように，ひとたび起きれば，その被害は甚大であり，被災範囲も広いのが特徴です。また，津波や津波からの避難方法を知らないために亡くなった犠牲者が多いのも事実です。



世界各地における津波被害（1610年以降）

１１月５日を指定することは，津波から多くの命を救った有名な逸話「稲むらの火」に由来します。これは，安政元年（１８５４年）１１月５日に起きた安政南海大地震の際，伝統的知識から津波を察知した一人の村のリーダー（濱口梧陵）が，自らの稲束（稲むら）に火をつけ多くの村人を高台に避難させ，命を救ったという話です。この村人は，その後，堤防の建設にも取組み，その後の津波災害から村人の命を守りました。



稲束（稲むら）に火をつける濱口梧陵

この話には，第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」においても，その重要性が確認された，①早期警報，②伝統的知識の活用，③より良い復興（ビルド・バック・ベター）の要素が含まれています。

この決議により，国連をはじめ世界中で津波の脅威についての関心が高まり，その対策が進むことが期待されます。また，日本は，毎年１１月５日に向けて，世界各地での津波の啓発活動や津波対策の強化を通じ，イニシアティブを発揮していく考えです。

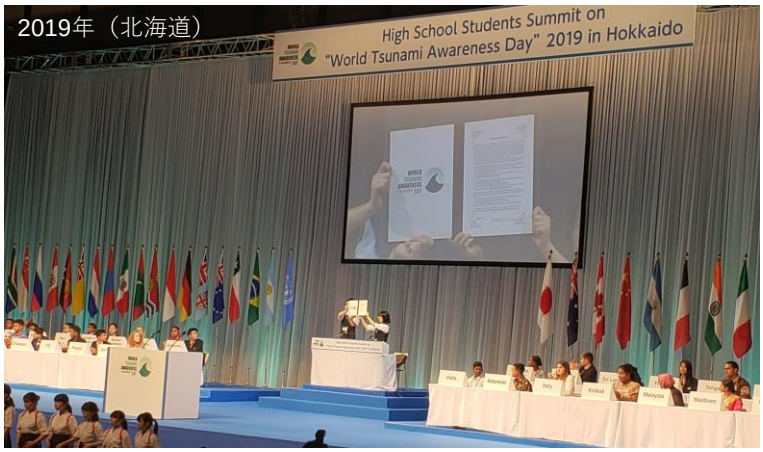
これまでの歩み

2016年より「世界津波の日」に合わせ、世界中に広く津波の脅威やその対策についての理解と関心を深めることを目的として、「世界津波の日」高校生サミットや、世界津波博物館会議、濱口梧陵国際賞・国際作文コンテスト、国際機関との連携等を実施しております。

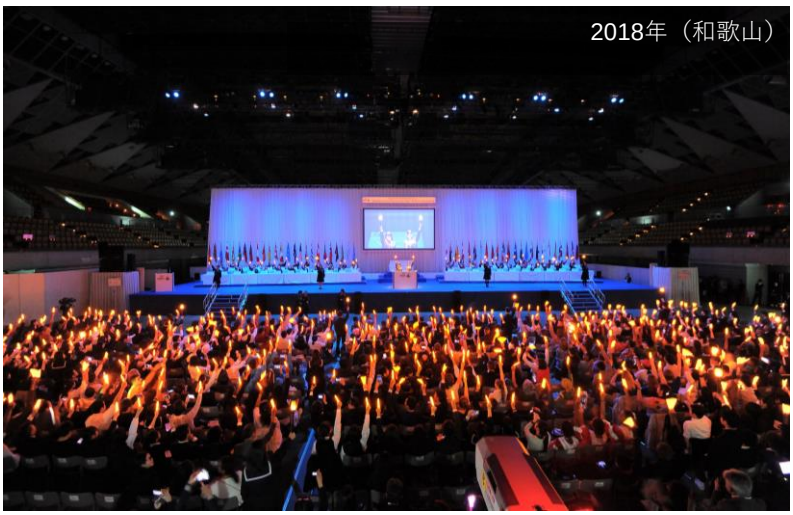
「世界津波の日」高校生サミット

2016 年から、世界中の高校生（国内外高校生200～400名）が災害の脅威と対策を学び交流を通じてお互いのきずなを深めることを目的に「世界津波の日」高校生サミットを日本各地で開催しております。

2022年（新潟）



2019年（北海道）


2018年（和歌山）

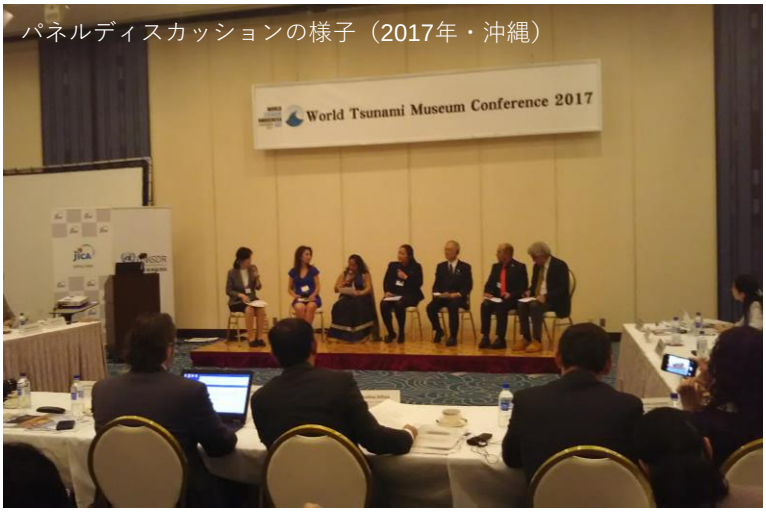
稲むらの火祭りに参加
（2018年、広川町）

2017年（沖縄）

2016年（高知県・黒潮）

世界津波博物館会議

世界各地に、津波による甚大な被害を受けた経験と教訓を後世に広く伝えるため、津波博物館が点在しています。世界各国の津波博物館の連携を促進し、津波のリスクについての人々の意識を高め、特に将来世代の防災教育を促進すること等を目的として、2017年から世界津波博物館会議が開催されています。



パネルディスカッションの様子（2017年・沖縄）

2018年（東京）

プレゼンテーションの様子（2022年・仙台及びオンライン）

濱口梧陵国際賞・国際作文コンテスト

濱口梧陵国際賞は、2015年に国連で「世界津波の日」が制定されたことを契機に創設された、津波防災分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人・団体を表彰する国際的な賞です。

また、高校生を対象として、濱口梧陵国際作文コンテストを実施し、濱口梧陵のエピソードを読んで、「考えたこと」「感じたこと」「体験したこと」等を綴った作文を、国内外の高校生から募集し、表彰を行っております。

濱口梧陵国際賞の授与式

国際機関との連携

国連防災機関（UNDRR）や国連訓練調査研究所（UNITAR）、国連開発計画（UNDP）等の国際機関と連携して、日本国内のみならず、津波の脅威に対する意識向上を目的とする啓発イベントや研修を実施しております。特に、防災においては、女性や子どもなど災害に脆弱な人々の視点も重要であり、女性や子どもを対象にした津波防災に関する研修も実施しております。

VRによる疑似津波避難体験（UNDRR）

フィリピンで行われた津波避難訓練の様子（UNDP）

トンガでの女性津波防災研修の様子（UNITAR）